

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 名古屋市立名東高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒465-0064
名古屋市名東区大針一丁目351番地

E-mail : kokusai-pt.meito-h@nagoya-c.ed.jp

Website : http://www.meito-h.nagoya-c.ed.jp

児童生徒数：男子 463 名 女子 653 名 合計 1,116 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～ 18 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

名東高校では、ユネスコスクールとして学校全体で取り組むテーマを、“Go global! Go higher! Go for it!”—真の国際人を目指す国際理解教育とESD—として、ESDの推進拠点となるよう、国際理解教育に積極的に取り組んできた。ESDの目標である「持続可能な社会を構築する担い手を育むこと」と名東高校の教育目標である「平和を愛し、広い国際的視野に立つ人間の育成」は同じ方向性を持っていると考える。平成26年度の名東高校のユネスコスクールとしての取組を、5つの観点（国際理解教育、国際交流活動、英語を使った発表、ESDユネスコ世界会議関連行事への参加、名東高校ESDフォーラム）から報告する。

(1) 国際理解教育

①学校設定教科「ワールドスタディーズ」

1年生では、文化・環境・平和・地理などの単元を設けて世界の諸問題を知ることやアクティビティ、ワークショップ、プレゼンテーションを通して生徒自身の気づきを重視し、自ら調べて発表するという過程を通して解決策を探究した。また2年生では夏季休業中にNGOなどの活動に参加、協力し、世界の諸問題解決のために自分たちができることは何かを考えて、プレゼンテーションを行い、行動につなげていくことができている。

②平成26年度「異文化セミナー」

ワールドスタディーズの授業の中で、専門的な知識を持った外部講師を招聘し、講義を受けたり、ワークショップを行う機会を持った。

6月 『イスラム教徒の生活』 ベガム・シャムシャド氏（名古屋国際センター講師）
イスラム教徒の方の日常生活についての理解を深め、日本との生活の違いについて考察する。

10月・『韓国の現在』 バン・ヒョンチョル 氏（韓国観光公社名古屋支社）
韓国の視点から「朝鮮半島情勢」や「日本と韓国の違いと日韓関係」についての講義と、生徒からの質問に答える形で行った。

- ・『貧困とフェアトレード』 土井ゆき子氏（風's代表）
世界各国のチョコレートを例に挙げながら、児童労働の現実とフェアトレードについて理解し貧困の解決のために自分たちに何ができるのかを考えた。



ワールドスタディーズ
「世界の諸問題について考える」



6月異文化セミナー
ベガム・シャムシャド氏と共に



10月異文化セミナー
『貧困とフェアトレード』

- 1 2月 『地球環境について考える』 杉山 範子氏（名古屋大学大学院環境学研究科
特任准教授）

環境問題についての専門的な知識と国際的な取り組みを理解し、COP20にみられる国・地域・組織の違いによる利害対立を乗り越えて、環境問題の解決に向けて何が必要なのかを考えさせた。

- 3月 『国際貢献を考える』 蒲 美幸 氏（前青年海外協力隊員、JOCA 勤務）
青年海外協力隊員として派遣された2年間のブラジルでの経験をもとに、
日本の国際貢献の在り方について考えた。

（2）国際交流活動

①留学生の受け入れ：留学生と共に生活することにより異文化理解を深めた。

4月 ・スイス、フランス、タイ、アメリカから4名の長期留学生受け入れ

6月 ・アメリカから2名の短期留学生受け入れ

・第1回「インターナショナルデイ」各留学生在自国を紹介、日本・名東高校での生活についての紹介、クイズ、能楽研究部発表、ロサンゼルス外国人講師の発表などを行い、生徒約50名が参加した。

（協力：外国語研究部、PTA国際交流委員会）



1 2月・オーストラリアから1名の短期留学生受け入れ

・第2回「インターナショナルデイ」（留学生との交流会）

2月 ・インドネシア・スマン2コタバル高校から生徒3名、校長先生を受け入れ（8日間）

① 語学研修：オーストラリア・ブリスベンにおける語学研修

本校では全生徒の希望者を対象に、オーストラリアへの語学研修旅行を実施している。ホームステイでは、英語を学びながら異なる文化圏での生活を体験し、研修中には、午後のアクティビティを設定して現地校訪問、大学見学、先住民アボリジニ文化の学習、スポーツ等、多様な活動を行った。事前研修では、オーストラリアの文化やホームステイの心構えを学習し、国際社会に対応する柔軟性と主体性を身につけることができた。



シャフストン語学学校



現地校で日本文化紹介



修了式

③海外修学旅行

本校国際英語科は韓国修学旅行を実施しており、現地を訪れて朝鮮半島の現状や日韓の歴史を学ぶ機会としている。また姉妹校である城南外国語高校への訪問も行っている。午前中は授業を体験し、午後は交流会として、それぞれの国や学校についての発表、また今年度はESDをテーマにした発表を行い、英語でのディスカッションにつなげることができた。



ディスカッション



ESDについての発表



記念写真

(3) 英語を使った発表

①English Camp

語学合宿中の3日間、英語だけで生活しながら、英語によるコミュニケーション能力を身につける。また、事前準備において、各グループがオリジナルの英語劇を創作し、様々な工夫をして充実した発表をすることができた。



英語劇



コミュニケーション・アクティビティ

②韓国城南外国語高校での英語による発表

名東高校と日本文化についての発表とESDをテーマとしたグループによる発表を行った。

③学校内外での英語スピーチコンテスト

2月の校内スピーチコンテストでは、生徒同士が切磋琢磨しながら自分の意見を英語で発信していく力の向上を図ることができた。校外のスピーチコンテストにも積極的に参加して優秀な成績を修めることができた。

(4) 平成26年11月に行われた「ESDユネスコ世界会議」関連行事への参加

- ①9月15日 名古屋市環境局主催「環境デー」にて名東高校ESDの取組発表
テーマ：・「名東高校の国際理解教育への取組」 ・「環境：”Virtual Water”」
生徒5名参加（ポスターセッション）（名古屋市中区役所ホール）

- ②10月26日 ESDユネスコ世界会議あいち・なごや支援実行委員会主催
「ESD子どもフォーラム」
テーマ：名東高校のESD取組発表 生徒3名参加（ポスターセッション）
（名古屋国際会議場）



名古屋市環境局主催「環境デー」



ESD子どもフォーラム

(5) 愛知県教育委員会ユネスコスクール活動助成金支援事業 活動報告

平成27年2月7日(土)

「ユネスコスクール認定記念—未来をつくる私たち—

名東高校ESDフォーラム&第30回英語スピーチコンテスト」

① 活動の内容

日本国際飢餓対策機構、EPO中部(環境省中部地方環境事務所)、名東高校と交流のあるインドネシア・スマン2コタバル高校校長を含めた3名を講師として招き、午前中はESDフォーラムとして基調講演と分科会を開催した。午後はテーマを”Sustainability”(持続可能性)として実施し、生徒によるESDレポート、本校のロサンゼルス外国人講師からのスピーチ、インドネシア高校生による発表を行った。パンフレットは、ESDについて共に学び、考える機会としたいというこの企画の趣旨と、名東高校の取組例として「ワールドスタディーズ」の紹介も含めた内容とした。会場前では名東高校国際理解教育の取組についての展示発表も行い、全体としてESDに関わる問題について共有し、未来へつながる解決策を考える充実した機会となった。

② 活動の成果

ESDのそれぞれの分野で活躍されている専門家の先生方からの講演と海外での実際の取組についての発表、名東高校生徒によるESDをテーマとした英語スピーチや発表を聞くことにより、世界の諸問題について参加者全員で考える貴重な機会となり、未来をつくるための積極的な行動を起こす第一歩となるような企画とすることができた。保護者、中学生、高校生、地域の方や他校の先生方など多くの方に来ていただき、この企画を通じて、ESDに関わる世界の諸問題についての理解を深め、またユネスコスクールとしての名東高校の実践をさらに発展させ、発信していく機会とすることができた。



日本国際飢餓対策機構 浅野氏



EPO中部 新海氏



インドネシア Edy Rakhmadi氏



スピーチコンテスト

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）